

令和3年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを文章で表すことに苦手意識がある。 自分の考えを理由を交えて述べるのが課題である。 「夏休みまでの漢字」に単元のC評価が約20%いる。 話を最後まで聞いて、要点を理解することが苦手である。 今年度学力テストの結果からも、「書くこと・読むこと」の数値が他項目より低く、さらに記述式の正答率が選択式・短答式の数値と大きく乖離していることが上記の課題を裏付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時の授業の中で、自分の考えを相手に伝えたり、文章に表したりする学習活動を多く設けていく。 読書感想文なども活用し、文を作る練習を繰り返し行う。 説明文を扱う単元では、要点をまとめる学習を取り入れる。一度で話を聞く環境つくりと、話す際に項目分けをして短い言葉で話すようにする。 文章力向上のために、通年での週1回の朝読書、月2回以上、図書時間を設定する。また、図書館支援員と連携して、読み聞かせや本を読むときのポイントを伝えてもらえるようにする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 知識技能のA評価が10%と課題がみられた。時代の流れを捉えることができていないことから、誤答が多く見られた。資料から必要な情報を抽出し、活用することが課題である。 調べたことを自分の言葉を使ってまとめることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、特に必要な情報は印をつけたりするなど強調し、確実に覚えられるようにする。 実物を提示することやワークショップ等の体験を知識と結び付けることで理解を深められるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 分数のかけ算は単元末テストにおいて平均正答率が8割であるが、約分し忘れによる誤答や計算間違いが8%程度の児童に見られた。かけ算とわり算の混ざった3口の計算となると、25%程度正答率であった。 割合を用いた分数倍では、平均正答率が約5割と低く、文章問題では、立式でつまづいている児童がほとんどである。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数の乗除は、①途中式で約分すること②整数を分数に直したり、帯分数を仮分数に直せることにポイントを絞って教える。 割合にかかわる内容では、授業の最初に数直線図を書くことを続け、確実にかけるように指導する。その際、簡単な整数に置き換えたり、もとにする数を文章から読み取ったりすることで苦手意識を少なくする工夫をする。また、割合の第1、2、3用法の問題を型ごとにプリントで学習し、文章を読んで、数直線図をかける力を身に付けさせる。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に、意欲的に取り組んでいる。 観察や実験の結果を文章でまとめることが苦手である。 用語を覚えることが苦手である。 「動物のからだのはたらき」の単元のC評価の児童が、知識技能25%、思判表で約30%いた。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果から考察を深め、文章でしっかりとまとめられる時間を設定する。ノート指導を徹底し、大切な用語に対しては強調して繰り返し伝える。 授業の始めに前時の復習を行う。また、テスト前に事前テストにも取り組み、実態に応じた復習を取り入れる。特に「動物のはたらき」の単元は、臓器の部位を覚えなくてはいけないことから、点数が低くなったと分析する。用語の確認を繰り返し行う。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 時期的に歌唱・リコーダー指導が十分にできなかったため、自然で無理のない発声や遠くに響き歌声。響きのあるリコーダーの息使いができていない児童が多い。 鑑賞の学習では音楽全体の雰囲気を感じすることはできるが、音楽の要素に焦点をあてて聴き取ることに課題がみられる。 音楽の仕組みについて理解が不十分な児童が30パーセントほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞やサイレント奏法でイメージをもたせながら、時期がきたら指導する。 音楽の要素をしっかりと聴き取り、それらを生かして音楽表現をしたり、鑑賞をしたりする学習を取り入れる。 意識的に音楽の仕組みや要素を指導していく。 鑑賞では、国語で学習した話型や文型を意識して鑑賞カードに書かせる。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表したいことに合わせて技法を組み合わせたことが苦手である。 表したいことを見つけれない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の技能や表現手法についてや、またその造形的な効果について丁寧に振り返ることで表したいことに合わせて技法の組み合わせができるようにする。 ワークシートを活用して表したいことを探る時間を設ける。また、作品例などを見せて、自分の表したいイメージに合うものを参考にさせる。 鑑賞では、国語で学習した話型や文型を意識して鑑賞カードに書かせる。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 技能面では、学習したことを繰り返し行わないことで忘れてしまう児童が多い。(裁縫など) 身の周りのことと関連していると結び付けることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだことを児童が家庭で実践できるように、学年便りやホームページなどで活動のしたことを伝える。また、ワークシートを準備して、家庭での実践を評価できるようにする。 自分事として捉えられるように身の周りの事象を学習で取りあげるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題をみつめて、工夫して改善していくという連の学習サイクルが身に付いていない。 学び合うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じて場の難易度を調整する。 学習の流れを意識させる授業を行う。 教え合うポイントを明確にしたり、ワークシートを活用したりして、学び合いがしやすい環境を整える。 コーチ・ディネーショントレーニングを通して、体の使い方を学ばせる。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つのアルファベットが書けない児童が約15%いる。 単語の理解ができないことから、活用することができない。 恥ずかしがって声を出さない児童がみられる。 全体の前の発表などの表現をする際に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話す内容を例示したり、考える時間を設定したりして自信をもって発表、活動できるようにする。 やりとりや発表する児童を評価して、すすんで活動できる雰囲気づくりをする。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを全体に共有することが苦手である。 学習カードには自分の思いを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考え方を肯定的に受け止めながら、児童が発言しやすい雰囲気をつくる。また、机間指導中に教員が印を付け、発表しやすいようにする。また、学習カードの書かれた内容を座席表でメモをしておき、意図的指名をし、共有をする。 学習カードに書いたことをもとにペア、グループ、全体発表と段階を踏むことで自分の思いを伝えられるようにする。 	
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集では、必要な情報を多く見つけることができるが、重要であるかどうか判断することが苦手である。 情報を整理分析することに苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> パソコンだけでなく、図書館資料や思考ツールの活用、友達と共有、インタビューをするなど重要な情報を集められるようにする。 自分の考えを整理するために、思考ツールをどの教科でも活用し、必要に応じて児童が選択・使用できるように教室環境を整えていく。 	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。